

第5学年 道徳科学習指導略案

2022 年 1 月 22 日(土)

1 主題名 理解し合う心 B 友情・信頼

2 教材名 「心のレシーブ」

3 ねらい 友達と互いに理解し合い、よさを認め合いながら人間関係を築いていこうとする心情を育てる。

4 指導内容

	○発問	◆指導上の留意点
導入	事前のアンケート調査結果から、価値項目にせまる。	◆事前のアンケートを集約したものを提示し、男女が互いに考えをもっていることに気付かせる。
展開	「心のレシーブ」を読んで話し合う。 ○チーム分けの時、どこかやる気のない態度の直希と良夫に対して、陽子はどんなことを思ったでしょう。 ○「良夫さんだって、がんばってる。」という直樹の言葉を聞いて、陽子はどんなことを考えたでしょう。 ○直希のかけ声にみんなが力強くなずいた時、陽子は心の中で何を考えたでしょう。 ○最初の陽子と最後の陽子では何が違うのでしょうか。 ○この話のように、友達との絆が深まったことはありませんか。	◆「男子」や「運動が苦手」という決めつけた見方をしている陽子の気持ちを考えさせる。 ◆陽子の幸世に対する思いにも触れる。 ◆直希の言葉に引っかかりながらも、良夫の頑張りを認め切れていない陽子の心情を捉える。 ◆直希は常に良夫の気持ちを理解して支えようとしていたことにも気付かせ、自分から支えていく大切さを感じるようにする。 ◆良夫の思いと陽子・幸世の思い、共通する思いをそれぞれ考える。 ◆友達との絆を深めるためには、決めつけた見方で人を見るのではなく、「信じること」「よさを認め合うこと」「支え合うこと」が大切だと気付かせる。 ◆必要に応じて学校生活の行事や場面を示す。
終末	友達のよさを認め、支え合っている様子を紹介する。	◆合奏などを例にして、互いを信じて頑張りを認め合った結果、友情が深まったことを実感させる。 【評価の観点】 友達との絆は、決めつけた見方にとらわれることなく、頑張りがやよさを認め合い、信じて支え合うことで深められると気付くことができるか。

5の1



「友達（特に異性）をどのように思っているか」事前にアンケートをとりました。授業では、アンケートをもとに、ソフトバレーボール大会に向けた練習を通して異性を互いに認め合うことのよさについて考えました。仲間を信頼できない気持ちが練習試合をきっかけに相手のよさを認め合える関係に変化していく様子を感じ取ることができました。

5の2

クラス対抗のスポーツ大会でソフトバレーボールに出場する陽子達4人の気持ちを話し合うことができました。男子メンバーに対する女子メンバーの気持ち、女子メンバーに対する男子メンバーの気持ちをそれぞれ考え、互いの考えが違うことを確認しました。共通して「試合に勝ちたい」という思いがあることや、最初と最後の陽子の違いに注目したことで、思い込んだり決めつけたりするのではなく、よさに注目することが大切だと気付くことができました。



5の3



クラス対抗のスポーツ大会でソフトバレーボールに出場する陽子達4人の気持ちを話し合うことができました。事前のアンケートでは、男女関係なく話したり、遊んだりすることができるという実態もありましたが、展開の中で、この対応は「異性」だからであるという意見も出ました。高学年になり異性との関わり方も変化している中、「友情」について考えることができました。